

2026年3月期 第2四半期

決算補足説明資料

2025年11月12日

証券コード:3741

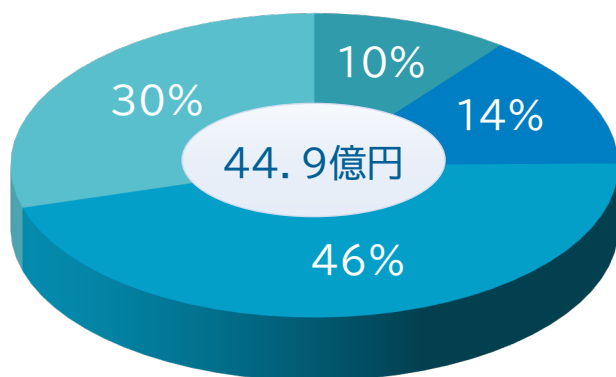


2026年3月期 第2四半期

決算概要

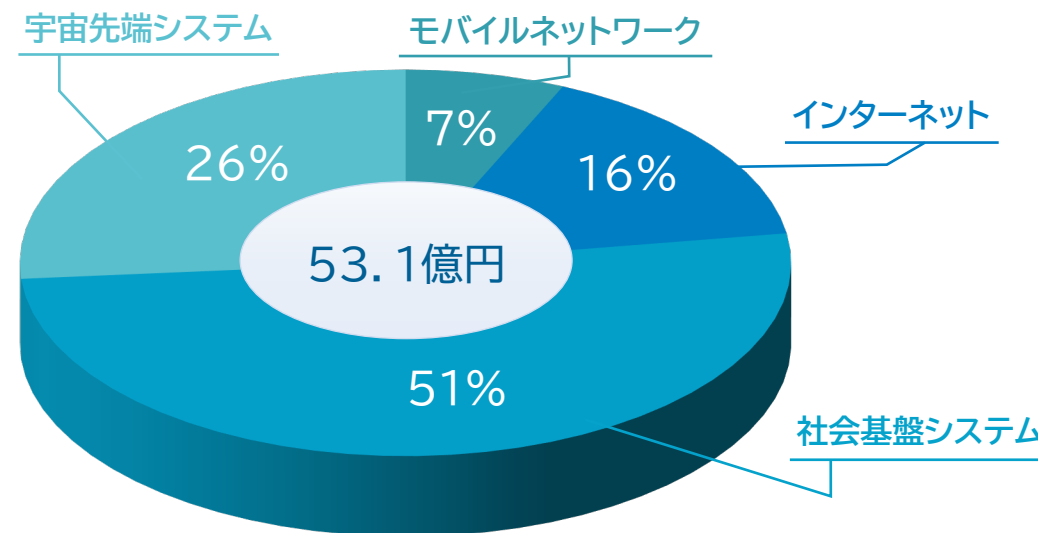
事業環境

IT需要は全体的には概ね堅調



2025年3月期第2四半期

需要構造の変化に応じ
柔軟に対応



2026年3月期第2四半期

モバイルネットワークBF

減少傾向が継続

インターネットBF

非接触IC関連の開発が増加したことに加え、民間企業向けのDX関連の開発も増加

社会基盤システムBF

医療分野の開発が大幅に増加したことに加え、交通分野や防衛分野の開発も増加

宇宙先端システムBF

車両自動走行の研究開発案件が堅調であることに加え、宇宙天文分野の開発が増加したものの、全体構成比では減少

2026年3月期第2四半期総括

売上高、営業利益、経常利益の全てで過去最高
前年同期比で増収増益

	当期（百万円）	前年同期比	利益率
売上高	5,317	118.3%	
営業利益	827	108.2%	15.6%
経常利益	889	109.8%	16.7%
当期純利益	623	110.1%	

受注高は過去最高、受注残高は過去2位

	当期（百万円）	前年同期比
受注高	5,944	100.9%
受注残高	6,888	96.1%

先端技術を窮め、オープン・イノベーションで事業成長を目指す

非接触IC関連の開発や、医療分野、交通分野の開発が増加するなど、需要構造の変化に全BF最適化の視点で対応した。

売上高、営業利益、経常利益の全てで過去最高となり、増収増益となった。

受注高は前年同期を上回り過去最高となったが、受注残高は、前年同期の医療分野の大型長期案件の受注の反動で減少し、過去2位となった。

第2四半期損益計算書

	2025年3月期第2四半期 (百万円)	2026年3月期第2四半期 (百万円)	前年同期比 (%)	期初予想 (百万円)	計画達成率 (%)
売上高	4, 4 9 5	5, 3 1 7	1 1 8. 3	4, 5 5 0	1 1 6. 9
売上原価	3, 1 0 3	3, 7 6 0	1 2 1. 2	3, 0 2 0	1 2 4. 5
売上総利益	1, 3 9 1	1, 5 5 6	1 1 1. 9	1, 5 3 0	1 0 1. 7
販売管理費	6 2 7	7 2 9	1 1 6. 3	7 6 0	9 6. 0
営業利益 (営業利益率)	7 6 4 (1 7. 0%)	8 2 7 (1 5. 6%)	1 0 8. 2	7 7 0 (1 6. 9%)	1 0 7. 4
経常利益 (経常利益率)	8 0 9 (1 8. 0%)	8 8 9 (1 6. 7%)	1 0 9. 8	8 5 0 (1 8. 7%)	1 0 4. 6
当期純利益	5 6 6	6 2 3	1 1 0. 1	5 9 0	1 0 5. 7

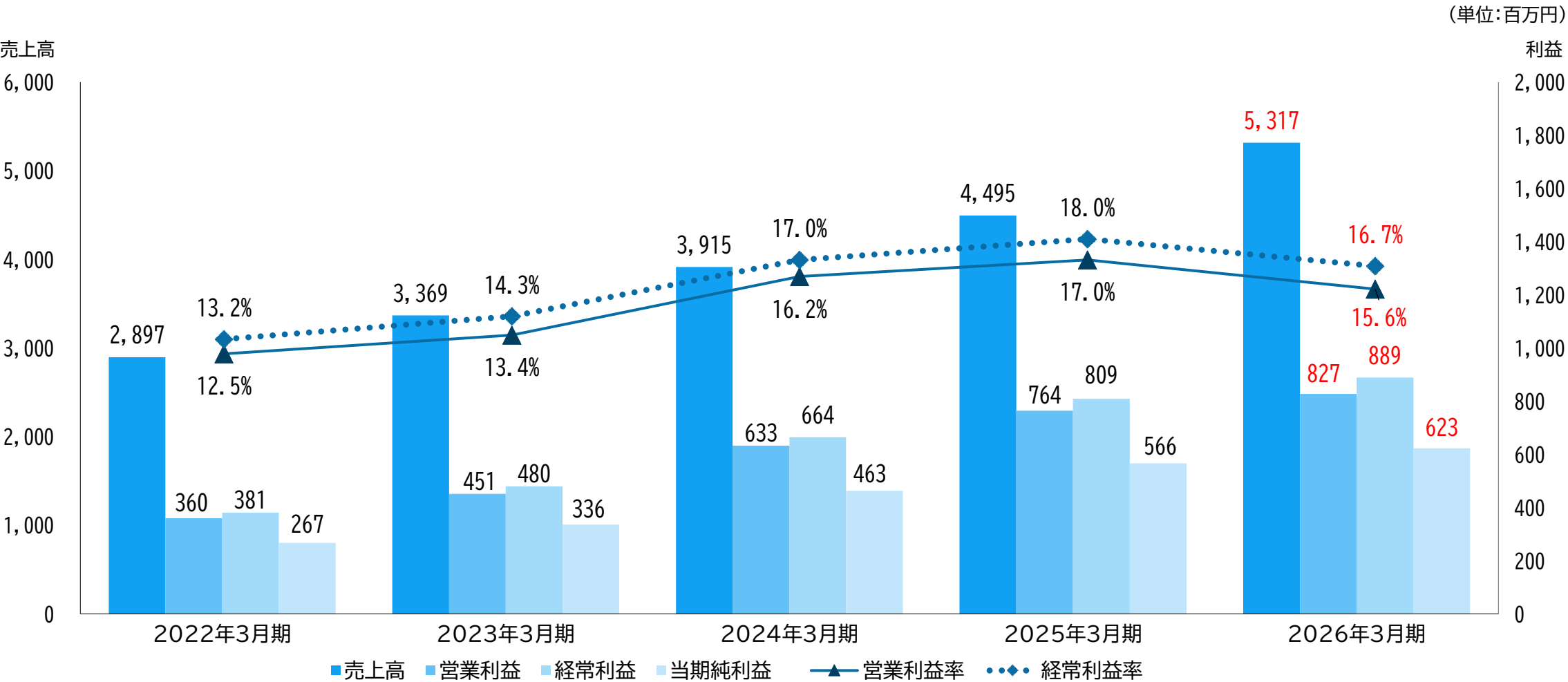
売上原価 仕入高(4.3億円、下期に予定していた納期が前倒しされ増加)、外注費(18.6億円、前年同期比15.3%増／売上高外注比率35.1%、前年同期比0.9%減)が大幅に増加、定期昇給・ベースアップにより人件費が増加

販売管理費 新入社員の増加、定期昇給・ベースアップにより労務費が増加、研究開発費は83百万円で、前年同期比で35.3%増

営業外損益 研究開発の補助金収入が大幅に増加(26百万円、前年同期比70.0%増)

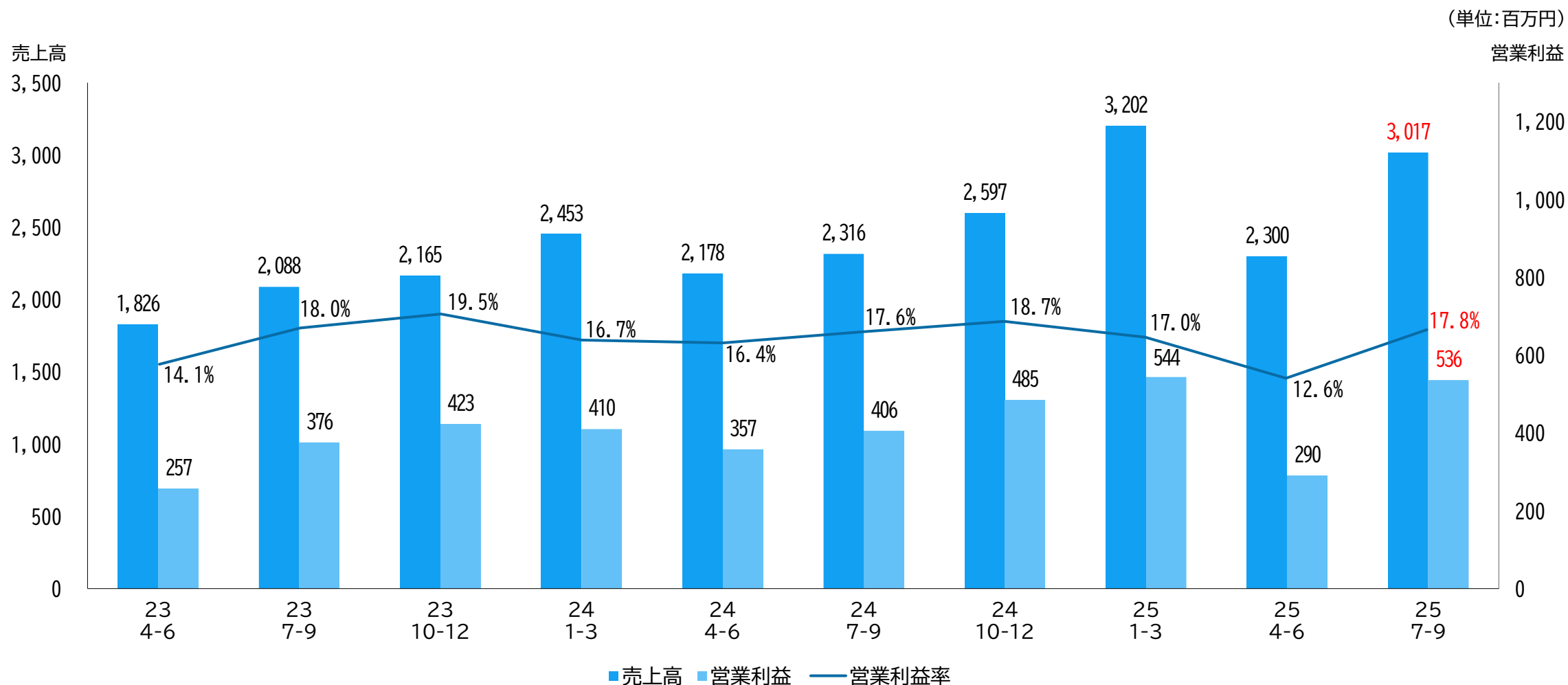
第2四半期決算業績推移(過去5年)

売上高、営業利益、経常利益、当期純利益の全てで過去最高



四半期業績推移(PL)

14四半期連続の増収増益の後、第1四半期は増収減益となったが、第2四半期は増収増益に回復

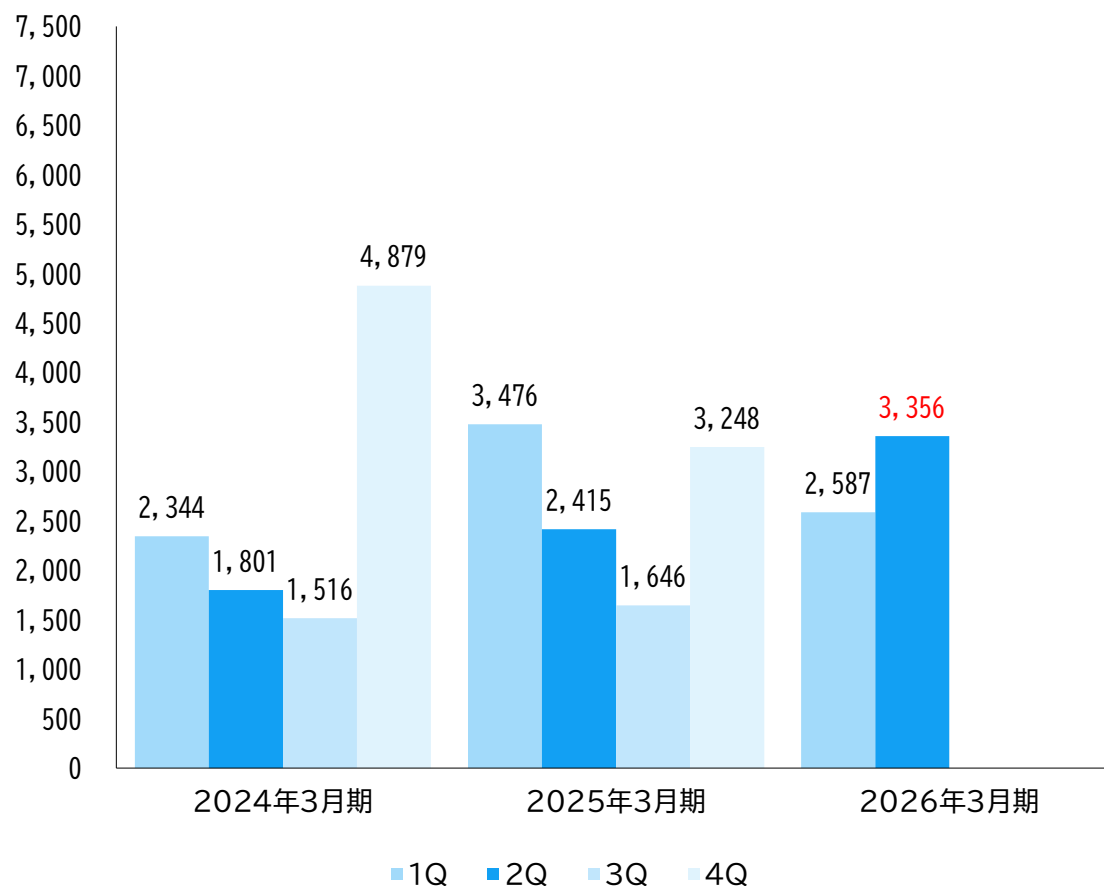


四半期業績推移(受注状況)

受注高は過去最高、受注残高は前年第1四半期の医療分野の大型長期案件の受注の反動で減少し、過去2位

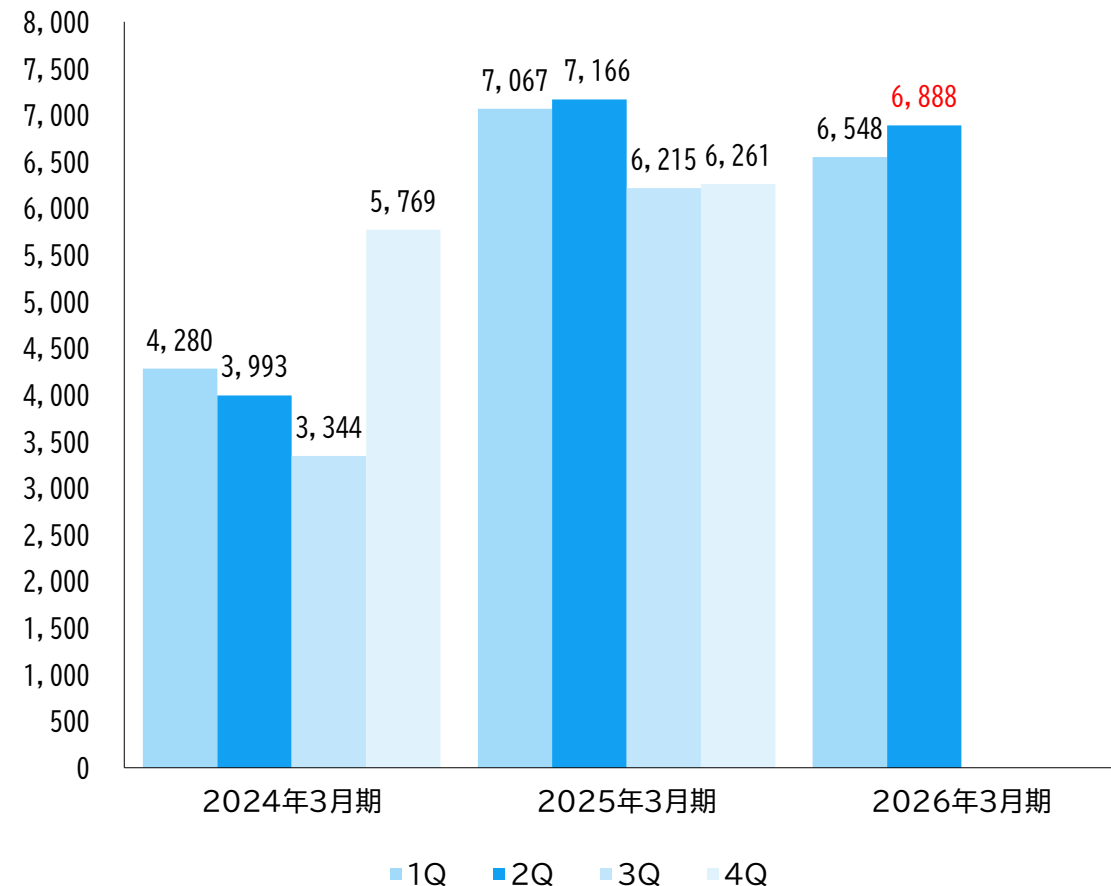
(単位:百万円)

受注高



(単位:百万円)

受注残高



第2四半期BF別の状況

社会基盤システムBF、インターネットBF、宇宙先端システムBFが増加

ビジネスフィールド	2025年3月期第2四半期		2026年3月期第2四半期		
	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	前年同期比 (%)
モバイルネットワーク	470	10.5	355	6.7	75.7
インターネット	642	14.3	843	15.9	131.3
社会基盤システム	2,055	45.7	2,718	51.1	132.3
宇宙先端システム	1,326	29.5	1,399	26.3	105.5
合計	4,495	100.0	5,317	100.0	118.3

- モバイルネットワークBFは、減少傾向が継続
- インターネットBFは、非接触IC関連の開発が増加したことに加え、民間企業向けのDX関連の開発も増加
- 社会基盤システムBFは、医療分野の開発が大幅に増加したことに加え、交通分野や防衛分野の開発も増加
- 宇宙先端システムBFは、車両自動走行の研究開発案件が堅調であることに加え、宇宙天文分野の開発が増加

第2四半期BF別受注状況

インターネットBFが大幅に増加

ビジネスフィールド	2025年3月期第2四半期		2026年3月期第2四半期			
	受注高 (百万円)	受注残高 (百万円)	受注高 (百万円)	前年同期比 (%)	受注残高 (百万円)	前年同期比 (%)
モバイルネットワーク	478	242	369	77.1	192	79.1
インターネット	679	359	928	136.8	514	143.1
社会基盤システム	3,307	5,576	3,226	97.5	5,341	95.8
宇宙先端システム	1,426	987	1,419	99.5	839	85.0
合計	5,892	7,166	5,944	100.9	6,888	96.1

※ 受注残高のうち、今期売上貢献分は4,216百万円(前年同期比1.9%減)、来期以降売上貢献分は2,671百万円(前年同期比6.9%減)

- モバイルネットワークBFは、全体的に減少傾向
- インターネットBFは、非接触IC関連や民間企業向けのDX関連の受注が増加
- 社会基盤システムBFは、官公庁向けの受注が増加したものの、前年同期の医療分野の大型長期案件の受注の反動で減少
- 宇宙先端システムBFは、宇宙天文分野の受注が増加したものの、サービスロボット関連の受注が減少し、全体として前年同期と同水準

2026年3月期

通期業績見通し

2026年3月期業績見通し

概ね計画範囲内であり、業績予想は据え置く

	2025年3月期実績(百万円)	2026年3月期業績予想(百万円)	前期比(%)
売上高	10,295	10,700	103.9
売上原価	7,224	7,470	103.4
売上総利益	3,070	3,230	105.2
販売管理費	1,277	1,390	108.8
営業利益 (営業利益率)	1,793 (17.4%)	1,840 (17.2%)	102.6
経常利益 (経常利益率)	1,893 (18.4%)	2,010 (18.8%)	106.1
当期純利益	1,344	1,395	103.8

売上高 前期と同様の需要環境を見込み、官公庁主体の社会基盤分野のビジネスを中心に推進し、前期比約4%増を見込む

売上原価 社員数増加や、定期昇給に加え大幅なベースアップによる人件費の増加、仕入高の増加などにより、増加を見込む

販売管理費 新入社員の増加などによる労務費の増加、研究開発の増加などにより、増加を見込む

営業外損益 研究開発の補助金収入の増加などにより、増加を見込む

当期純利益 前期は賃上げ促進税制の適用により増加したが、今期は税金費用を法定実効税率どおりで計算

2026年3月期BF別業績見通し

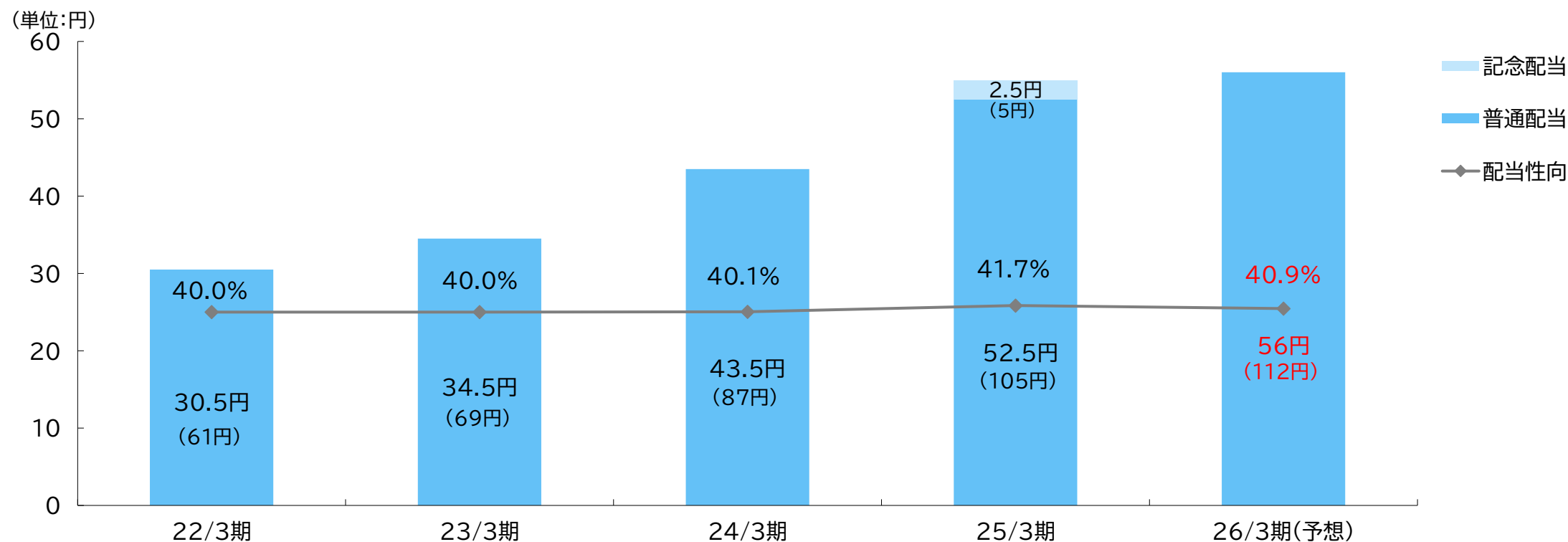
インターネットBF、社会基盤システムBF、宇宙先端システムBFが増加する見込み

ビジネス フィールド	期初の想定	予想	第2四半期状況判断	予想
モバイル ネットワーク	前期と同様の環境が継続し、減少		前期と同様の環境が継続しており、ほぼ 想定通りの展開	
インターネット	非接触IC関連の開発が堅調であること に加え、民間企業向けのDX関連の開発 が増加し、増加		非接触IC関連の開発が堅調であること に加え、民間企業向けのDX関連の開発 が増加し、想定を上回る展開	
社会基盤 システム	環境分野や福祉分野をはじめとした官 公庁向けの開発が好調であることに加 え、医療分野の大型案件や防衛分野の 開発が増加し、増加		官公庁向けの開発が増加見込みである ことに加え、医療分野の大型案件や交通 分野、防衛分野の開発が増加し、ほぼ想 定通りの展開	
宇宙先端 システム	車両自動走行の研究開発案件や宇宙ロ ボット関連の開発が堅調であることに加 え、国の研究機関向けの開発が増加し、 増加		車両自動走行の研究開発案件が堅調で あることに加え、宇宙天文分野の開発が 増加し、ほぼ想定通りの展開	

配当の方針

配当性向40%を目安とし、前期比で每期増配の方針

2025年10月1日付で、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施。
2026年3月期は、株式分割の実施に伴い、配当予想を期初予想の1株当たり111円(分割後換算55.5円)から56円に修正。



※1株当たり配当金は、2022年3月期の期首に株式分割が行われたと仮定して算出しております。
()は株式分割前の金額。

ご参考: ニュースリリース一覧(2025年7月~11月)

7月16日 建設・建築DX EXPO 2025 夏 東京に出展

7月22日 Quantum Innovation 2025にて量子コンピューティングに関する大阪大学との共同研究成果について発表

7月28日 大阪大学が稼働を開始する「純国産」量子コンピュータの開発に協力

7月31日 国際宇宙ステーション上の宇宙ロボット協働実証実験「ICHIBAN ミッション」に技術協力

8月 1日 「ポスト5G情報通信システム基盤強化研究開発事業／量子コンピュータの産業化のためのミドルウェア開発」に採択

8月 4日 「ポスト5G情報通信システム基盤強化研究開発事業／ロボティクス分野におけるソフトウェア開発基盤構築」の委託先に採択

8月 5日 リアルタイム膀胱内視鏡検査支援システムの開発・事業化プロジェクトに参画

8月 5日 【出展レポート】建設・建築DX EXPO 2025 夏 東京

9月12日 日本証券新聞社主催のIRセミナー(広島・福山)にて会社説明会を開催

9月17日 群馬県「IoT・AI活用人材育成講座」開催

9月18日 AMD Adaptive & Embedded Computing Tech Day 東京 出展

9月29日 NIHONBASHI SPACE WEEK トークセッション開催

10月 1日 XR・メタバース総合展出展

10月 1日 セック、チームスピリットと公共分野における人事管理業務のデジタル化で協業を開始

10月15日 横浜ロボットワールド2025出展

10月17日 STATION Aiにてロボット荷物搬送サービスの実証実験を実施

10月20日 【出展レポート】第5回 XR・メタバース総合展(秋)

10月21日 京都リサーチパークにおいてリザーバーコンピューティングを用いた実証実験を実施

10月29日 世田谷区 STEAM教育講座「宇宙ステーションではたらくロボットをプログラミングしよう！」に協力

11月10日 第69回宇宙科学技術連合講演会にてJAXAと共同で宇宙ロボティクスに関する口頭発表を実施

11月10日 TSUKIMI観測シミュレータの開発に協力

11月10日 「マルチタスクロボットによる建物の維持管理業務支援の実証検証」に協力

- この資料の目的は、当社へのご理解を深めていただくためのIR情報をご提供することであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。投資につきましては、ご自身でご判断願います。
- この資料には、当社の現在の計画、戦略、将来の業績に関する見通しなどが記載されております。こうした記述は、当社の将来の業績を保証するものではなく、経営環境をはじめ、さまざまな外部的要因の影響等により変化しうることをご承知おきください。
- この資料の作成に際しましては、細心の注意を払っておりますが、内容につきましていかなる保証を行うものでなく、この資料を使用したことによって生じたあらゆる損害などについて、当社は一切責任を負うものではありません。

